

第 1 1 回常任理事会会議録

日 時 平成 21 年 3 月 16 日 (月) 午後 3 時～午後 4 時 40 分
場 所 日本歯科医師会 801 会議室
出席者 <会 長> 江藤一洋
<副 会 長> 黒崎紀正
<総務理事> 住友雅人
<常任理事> 高津茂樹、川添堯彬、高木忠雄、佐藤田鶴子、
平井敏博、江里口 彰、恵比須繁之、後藤滋巳、
宮崎 隆、栗原英見、荒木孝二
日本歯科総合研究機構
<研究部長> 石井拓男
欠席者 <副 会 長> 井出吉信
<常任理事> 土屋友幸

[議長 江藤会長]

1. 開 会

黒崎副会長から、開会の宣言がなされた。

2. 挨拶

江藤会長から、挨拶がなされた。

3. 報 告

1) 一般会務報告

住友総務理事より、次の資料に基づき、一般会務報告がなされた。

- 一般会務報告 (平成 21 年 2 月 13 日～3 月 15 日)
- 第 10 回常任理事会会議録 (平成 21 年 2 月 13 日開催)
- 朝日新聞東京本社編集局長宛の抗議文

2) 第 21 回日本歯科医学会総会関係報告

住友総務理事より、次の資料に基づき報告。

- 第 21 回日本歯科医学会総会関係報告
(平成 21 年 2 月 13 日～3 月 15 日)
- 第 21 回日本歯科医学会総会記録

3) 国際歯科研究学会日本部会 (JADR) 理事会報告

栗原常任理事より、標記について、2009 年度第 1 回 JADR 理事会日程に基づき報告。

また、JADR の会員数が減少傾向にあることを危惧していると補足説明。

4) 会計現況報告

高木常任理事から、次の資料に基づき、会計現況報告がなされた。

□平成 20 年度学会会計収支計算書

(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 2 月 28 日)

□第 21 回日本歯科医学会学術大会 (総会) 総予算及び総決算

また、第 21 回学会総会決算において、第一款事業費支出内の同時通訳費支出が 0 となった経緯について、同時通訳費支出額が指名業者の出精値引き額に近似していたため、同支出に値引き分をあてがった結果である旨報告。次期執行部には、同時通訳業務の必要性が否定されるものでない旨申し送りしたいと補足説明。

5) 重点計画の推進

(1) 歯科医療への学術的根拠の提供体制の構築

▶次期診療報酬改定に向けた医療技術の評価・再評価について

黒崎副会長より、明日、歯科医師会館で開催する次期診療報酬改定における歯科医療技術評価再評価提案書に関する説明会について、当日配付予定の資料に基づき説明。

▶診療ガイドラインについて

江藤会長より、日本歯科医学会主導で準備中のガイドラインと各分科会独自のものを束ね、来年度中の歯科医学会診療ガイドラインライブラリーへの収載を目指していきたいと説明。

石井日歯総研研究部長より、①診療報酬改定に係る指針と本ガイドラインとは別のものであること、②本ガイドラインは MINDS に直結するものであることを関係学会に知らしめていただきたいと要請があった。

2) 歯科医療技術革新の推進

特になし。

3) 学会機構改革の推進

特になし。

4) 専門医制度の確立

特になし。

5) 国際交流の推進

江藤会長より、日中歯科医学大会 2008 記録を作成した旨報告。

6) 会長報告

特になし

7) その他

○江藤会長より、日歯及び日歯総研監修のもと、歯科医療白書 2008 年度版が刊行された旨報告。

石井日歯総研研究部長より、本書では歯科界の窮状、とりわけ歯科医師のワーキングプア問題について、客観的データに基づき報告していると補足説明がなされた。

○黒崎副会長より、医療技術評価再評価提案書の記入要領について説明があった。

4. 協 議

1) 重点計画の推進

(1) 歯科医療への学術的根拠の提供体制の構築

特になし。

(2) 歯科医療技術革新の推進

特になし。

(3) 学会機構改革の推進

特になし。

(4) 専門医制度の確立

特になし。

(5) 国際交流の推進

特になし。

2) 事業計画の推進

(1) 事務引継について

住友総務理事より、次期執行部への事務引継書案に基づき諮られた。

協議の結果、「10. 学会各種事業について」内の日本歯科医師会事業への協力に関する項の文言を一部変更することとし、その内容については江藤会長に一任した。

(2) 第28回日本医学会総会学術プログラム共同企画について

住友総務理事より、第28回日本医学会総会における関係学術プログラムの取り扱いについて、同総会準備委員会より本学会との共同企画受諾依頼及び意見開陳等があった旨資料に基づき説明があり、その対応について諮られた。

協議の結果、学術プログラム案では歯科医療の特徴的かつ重要な役割である口腔ケアが具体的な文言として見てとれないことや、同総会の学術プログラム領域上の区分けにおいて、歯科がコ・メディカルに位置づけられていることは、本学会としても一概に承服できるものではないため、既載の関係学術プログラムの領域やテーマ名を変更し、新規共同企画として再提案することとした。

なお、具体的な変更作業は、住友総務理事及び同総会における歯科側プログラム検討委員である一戸達也東京歯科大学教授のもとで進めていくこととした。

(3) 後援名義貸与について

住友総務理事より、標記について資料に基づき諮られ、協議の結果、後援名義を貸与することとした。

(4) 役員派遣について

住友総務理事より、標記について資料に基づき諮られ、協議の結果、原案通り承認した。

3) その他

荒木常任理事より、プロジェクト研究を担当する研究者が英文論文に記載する謝辞標記について諮られ、協議の結果、原案通り承認。

なお、英文雑誌編集委員会委員にも意見を求めることとした。

5. 閉 会

黒崎副会長から、閉会の辞が述べられた。